

新技術・情報名	フェロモントラップを利用した果樹害虫の簡便な発生予察法
場 所 名	長 崎 県 果 樹 試 験 場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>カンキツのミカンハモグリガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、ビワのナシヒメシンクイ、モモのモモハモグリガに対して性フェロモンを利用して成虫の誘殺数を調査した。</p> <p>その結果、性フェロモントラップを設置することにより、発生消長が把握でき、次世代の防除適期が推定できる。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>性フェロモンを利用した簡便な発生予察で、防除適期の把握ができ、効率的防除が可能である。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>カンキツ、ビワ、(ナシ) 栽培地帯</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>次世代の防除時期の予察は可能であるが、発生量の予察が確立してないため、防除要否の判定ができない。</p> <p>また、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、ナシヒメシンクイのフェロモンは市販されているが、ミカンハモグリガ、モモハモグリガのフェロモンは、まだ市販されていない。</p>	

2. 具体的データ

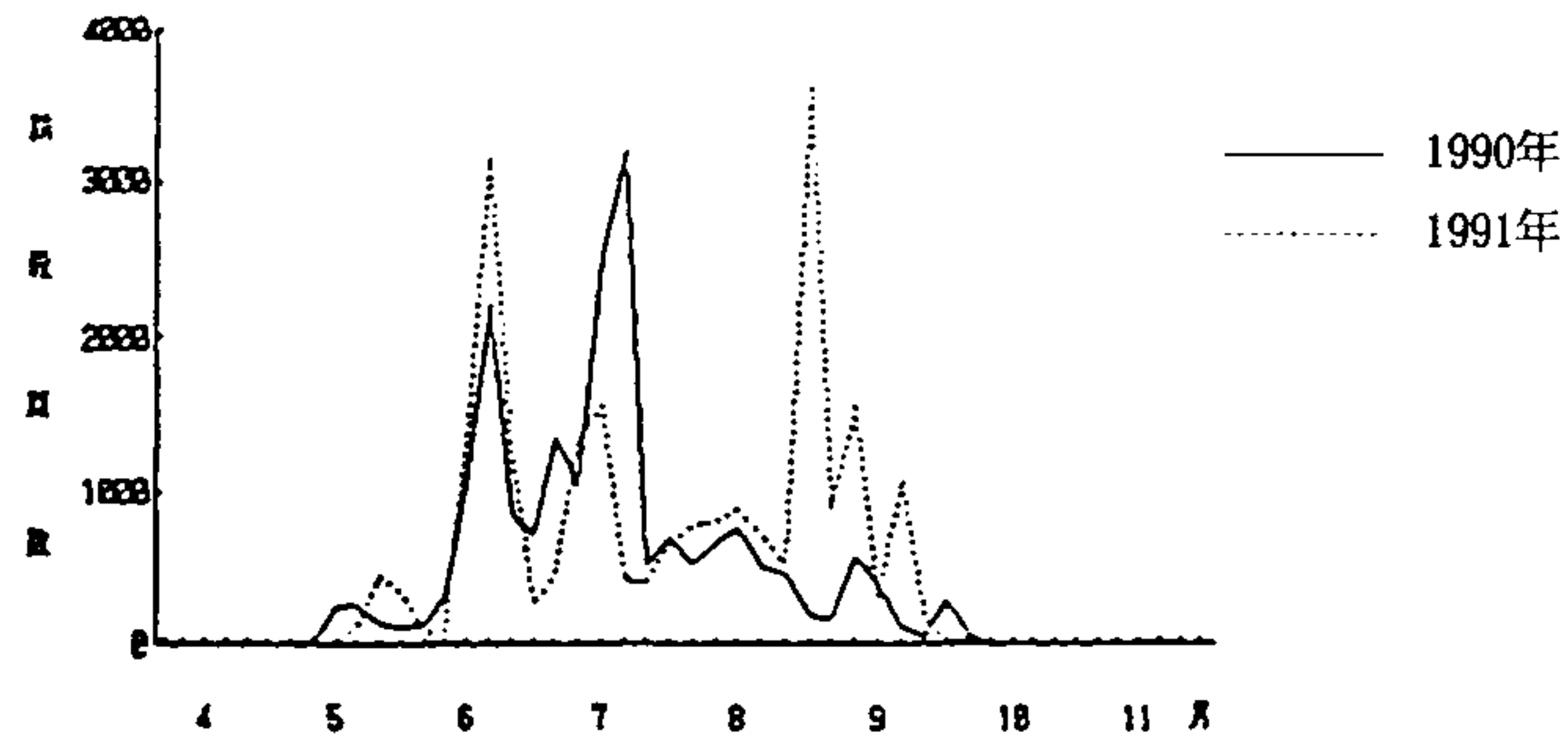


図1 ミカンハモグリガの誘殺頭数

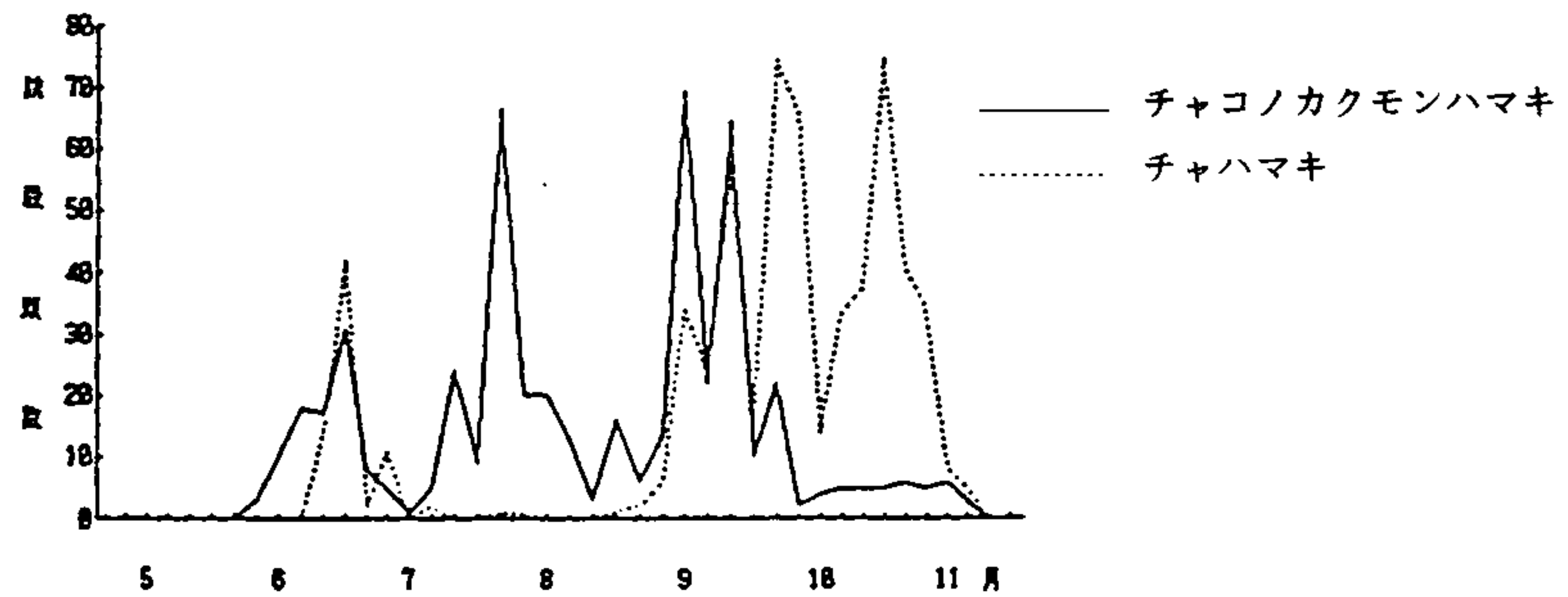


図2 チャノコカクモンハマキ、チャハマキの誘殺頭数

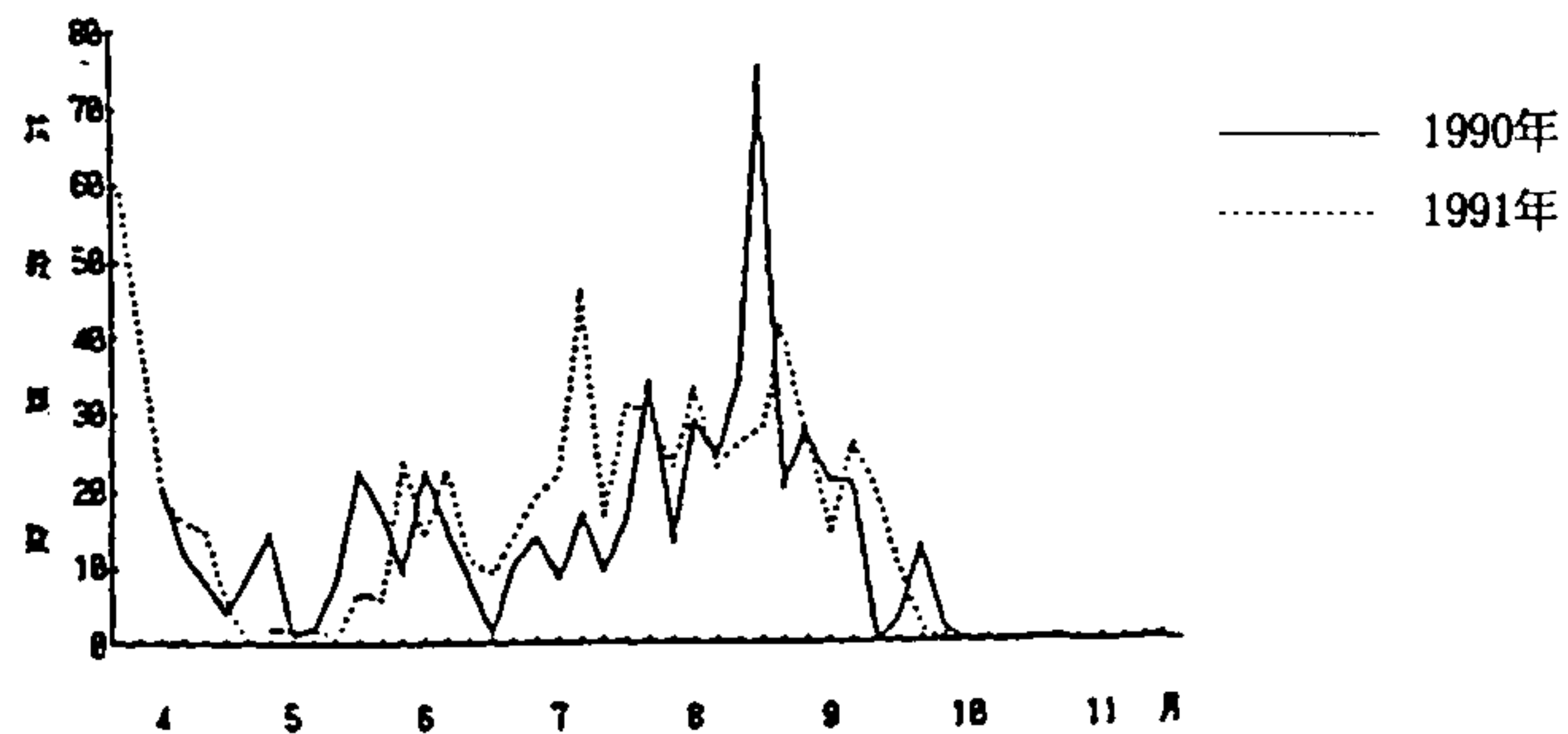


図3 ナシヒメシンクイの誘殺頭数

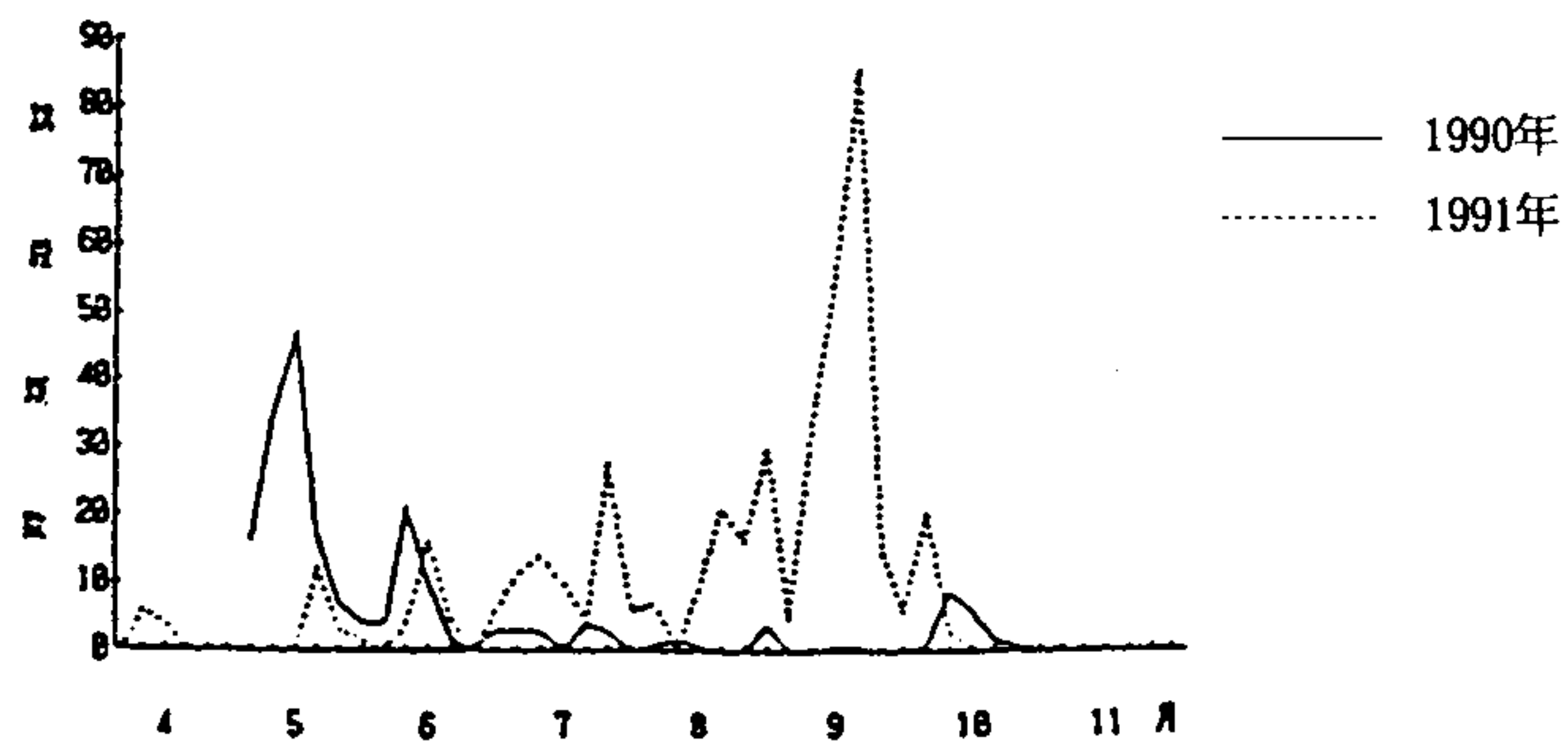


図4 モモハモグリガの誘殺頭数

3. その他特記事項

担当部科名：病害虫科

研究課題名：果樹の生態系活用による害虫の総合管理技術の確立試験

研究期間：平成2年～6